

1 目指す学校

【教育目標】

校訓 「英知・創造・調和」のもとに、次の資質・能力を育てる。

- ア 科学技術への興味と関心を伸ばし、創造性や問題解決能力を育てる。
- イ 基礎的な知識と技能を身に付け、進路実現に必要な学力を育てる。
- ウ 人間としての在り方・生き方を深く学び、規範意識や望ましい職業観・倫理観を育てる。
- エ 人を理解し尊敬できるよう他者と積極的に関わらせ、責任感のある豊かな人間性を育てる。
- オ コミュニケーション能力を高め、国際社会において主体的に生きる力を育てる。

【スクール・ミッション（上記の教育目標を踏まえた上での目指す学校像）】

先進的・実践的な科学技術教育を推進する学校として、幅広い科学的知識や技能を培い、大学進学に向けた普通教科指導に加え、実験・実習や大学・研究機関と連携した体験学習を豊富に取り入れ、校内外での研究活動・研究発表等を充実させることで、将来の科学技術者・研究者として活躍できる生徒を育成する。

【グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力）】

- ア 科学技術者・研究者を目指す礎となる学びに向かう力、人間性
(主体性・協働性、規範意識や望ましい職業観・倫理観を身に付けるため自己調整力や粘り強さ)
- イ 新時代に生きる力
(問題解決能力、情報活用力、発信力、それらを土台とした上での創造性)
- ウ 理系大学進学に対応した力
(希望する進路実現に必要な知識・技能、基礎学力(体系的な理解力、活用力))

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）】

- ア スーパーサイエンスハイスクール指定校として、学校設定教科・科目の内容を充実させ、数学・英語・理科に習熟度別授業を多く取り入れ、理系に特化した教育課程を編成する。さらに課題研究等の探究活動を中心に、様々な教科で探究活動に取り組む。
- イ 平日45分7時間授業、土曜日は講習等で有効利用する。また、3年次に多様な選択科目を設け、共通テストに対応できる学力を高める。さらに、入学時より「SS特別進学クラス」を設け、進学意識が高く、多様な選抜方法に挑戦する生徒の育成を行う。
- ウ 創造理数科は、体系的に理解を深めることを目指し、理数科専門科目の教育内容を充実させる。科学技術科には1年次から「SS特別進学クラス」を設け、創造理数科とともに多様な大学入試選抜方法に挑戦する生徒を育成する。
- エ 充実した施設・設備を土台に、実験・実習や体験的な学びを通して科学技術への興味・関心を伸ばし、問題解決能力を高め、生徒の主体性を伸ばす校内外の研究活動・研究発表の内容充実を図る。
- オ 外部研究施設見学や大学研究室訪問、講演会を通して自己の在り方・生き方について学び、キャリア教育を充実させる。また、デジタル活用教材等を通してオンライン教育を推進する。
- カ 研究発表、海外校との英語による相互発表、海外研究者講演会等を実施して発信力を育成し、多様な文化を尊重できる態度を育み、国際的に活躍できる科学技術者の育成に努める。
- キ 年間指導計画に基づくホームルーム活動の計画的な実施を通して、学級集団の中での自己の役割を履行させ、責任感と協調性を育む。また、生徒会活動や委員会活動の自主的運営を促し、自治活動の基礎を培う。さらに、部活動を充実・発展させ、個性の伸長と心身の発達を促す。

【アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）】

- ア 本校の教育目標と教育内容をよく理解し、入学を強く希望する生徒
- イ 理科系大学への進学等、希望する進路実現に向け、日々の学習活動に意欲的に取り組む生徒
- ウ 科学技術への興味・関心をもち、何事にも粘り強く取り組む生徒
- エ 学校行事や生徒会活動、部活動等に、積極的に取り組む生徒
- オ 社会の一員としてルールやマナーを身に付け、自他共に思いやる心を持ち、積極的にコミュニケーションを図る生徒

2 中期的目標と方策

教育目標、スクール・ミッション、3つのスクール・ポリシーの基に、下記の中期目標を目指す。

- ①生徒のチャレンジ精神を開拓し、将来の日本の科学技術を支える人材となり得る意欲や資質を伸ばす。
 - ②文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」（以下SSHと表記）指定校として、研究開発課題「生徒のコンピテンシーを高め合う探究力育成カリキュラムの開発KENKYU at TOKYO」に向けて、探究カリキュラムの構築、英語をツールとした研修、オンライン交流を取り入れた海外学校間交流、地域課題発見等に取り組み、その成果を外部研究発表会等で発信する。（指定期間は令和3年度から令和7年度までの5年間）
 - ③令和4・5年度の「東部学校経営支援センター特別指定校」として、SSH関連研修への参加生徒数を増加させ、国公立大学等への理系学部への進学実績を伸ばし、本校の魅力を広く周知して入学選抜で第一志望に選ばれる学校となる取組を継続する。
 - ④令和6年度に設置された創造理数科について、定期的に創造理数科運営委員会を開催し、創造理数科としてのカリキュラム（校外での企画や探究実践も含む）・大学や企業等との連携・入学者選抜内容等を着実に確定し周知していく。
- 以上の目標を達成するため、次の中期目標を設定し、教育内容と指導の充実を図る。

（１）科学技術への意欲向上と基礎学力の育成

- ①SSH指定校として、生徒の個性を伸ばし、生徒どうしが高め合うカリキュラム開発に資する。
 - ②カリキュラムマネジメントを働かせ、専門教科と普通教科を連携させ効果的な授業を展開する。
 - ③課題研究、探究等のポスター作成や説明能力、プレゼンテーションスキルの指導を充実させる。
 - ④SSH指定校として、生徒の意欲を高める科学技術科の特色を生かした特別活動を実施する。
- さらに、理数に関する組織的教育活動を推進し他校等へ波及を図る。
- ⑤生徒の主体性を伸ばす校外研究発表・研究論文コンテスト等への参加や大学・外部研究機関との連携事業を推進する。
 - ⑥地域や小・中学校と連携した科学技術啓発のための展示や実演を行う。
 - ⑦科学技術者・研究者に必要な倫理観や社会貢献の精神を育てる取組を充実させる。
 - ⑧海外学校間国際交流校として、共同研究発表での交流や姉妹校交流、英語研修の取組を推進する。

（２）希望する理系大学への進路実現

- ①授業時間を最大限に活用するとともに、授業時数の確保を行う。学習支援クラウド等を活用し、「未来の東京」戦略等に基づくデジタル技術を活用した教育を推進し、自宅学習等の授業時間以外での学習の質と量を充実させる。
- ②選抜クラス及びSS特別進学クラスを設置して学年を牽引するとともに、外部模擬試験を活用して生徒の学力把握及び学力向上につなげ、多様な大学入学の選抜方法を活用して生徒の進路実現を学校全体で支援する。
- ③習熟度別授業や少人数授業の授業展開を工夫し、3年間を見通した教科指導を充実させる。
- ④生徒一人一人の進路希望を実現するため、講習・補習、面接指導などの個別指導を充実させる。
- ⑤相互授業参観や、様々な授業研修等の活用により教員の指導力向上を図る。
- ⑥デジタル教材・ICT等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する効率的・効果的な授業を推進する。

（３）生徒が安心して学ぶことのできる教育環境の整備と生徒の責任感、主体性、協働性の育成

- ①体罰根絶の姿勢を教職員が共有し、いじめや生命に関わる事故の未然防止、早期発見に学校全体で取り組む。
- ②「東京都特別支援教育推進計画第二次実施計画」に基づき、スクールカウンセラー等を活用し、教育相談体制や特別支援教育体制を充実させる。さらに、健康調査や基本的な感染対策を適正に継続していく。
- ③服装等の身だしなみ指導を徹底し、挨拶の励行指導を行う。
- ④朝の正門指導や保護者と連携を推進し、遅刻防止指導を徹底する。
- ⑤生徒会のリーダー性を育み、委員会活動を活性化する。
- ⑥部活動を活性化し生徒の部活動加入率を高め、「TOKYO_ACTIVE PLAN for students（令和4年3月策定）」（総合的な子供の基礎体力向上方策）を参考に体力テストや体育祭等の充実を図ることによって、生徒の体力向上に取り組む。
- ⑦学校2020レガシーを継承し、その理念を学び、国際理解やスポーツへの興味・関心を高める。

（４）広報活動の充実

- ①多くの中学生や保護者等に本校の魅力ある情報を提供するために、ホームページ更新回数を増加するとともに、学校案内、チラシなどの効果的活用を実践し、本校実施もしくは外部実施の合同相談会に積極的に参加して本校の魅力を発信していく。
- ②創造理数科及び科学技術科の特長や魅力を中学生、保護者、中学校教員、塾関係者等に広く周知して、十分な理解を得て受験してもらえるように広報活動を展開していく。
- ③科学技術教育の魅力を理解していただく為に、学校見学会・説明会、体験入学の充実を図り、来校者数増加に資する。
- ④中学校訪問や塾訪問などの活動を活性化し、本校を第一希望とする中学生を掘り起こす取組を活性化する。
- ⑤授業公開、部活動や実験・実習を紹介する動画制作、文化祭など本校の活動を周知する取組を充実させる。

3 令和6年度の目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策	(2) 重点目標と方策〔 〕内は令和5年度数値
1 特色ある教育活動 (1)SSH指定校として、課題研究を中心とした探究カリキュラムを構築する。 ①科学技術に関する実験・実習の内容を充実させて専門性を高める、課題研究等で自らテーマを決め、検証・分析して考察する取組を充実させる。 ②SS科学技術探究等の学校設定科目を中心に、あらゆる教科で生徒の探究的学びへの指導法を工夫し、すべての生徒の研究発表の機会を支援する。 ③SS工学技術基礎などのカリキュラム開発を推進する。 ④カリキュラムマネジメントを働かせ、専門教科と普通教科を連携させた実践例を積み重ねる。 ⑤小・中学校や他の高校と連携して、科学技術教育の普及に努め、科学技術人材を育成する。 ⑥SSH予算の図書購入、図書館利用の活性化により読書率を向上させる。 (2)英語研修や発表等による交流活動を推進し、コミュニケーション能力を高める。 ①英語をツールとして自分の考えを伝えるための英語研修を実施する。 ②インドの高校生招へい事業を実施等、オンラインに加えて、対面での交流活動を活性化させる。 ③海外若手研究者等の講演会を多くの生徒が参加できるよう工夫していく。 (3)学校の将来像を見据え、研究室訪問や企業体験活動など、大学・企業との連携実践例を増やし、キャリア教育を推進する。	(1)校内の課題研究発表会を全員参加型として校外の研究発表件数の増加、生徒の主体性を育成し発信力を高める。 ①生徒の主体性を伸ばすポスター・口頭発表等の校内発表の充実と校外における研究発表会への参加を活性化する。 ②全国レベルの研究発表会やコンテスト等に挑戦する活動を推進する。 (2)英語研修プログラムやオンライン・対面での国際交流に取り組み、生徒の苦手意識を払しょくして問題解決力・発信力を高める ①夏季休業中にエンパワーメントプログラムを実施する。 ②台湾・インドとのオンラインや対面での交流を実現し、より多くの生徒の参加を促す。 (3)大学等の研究室訪問や大学等実施の講演会、企業実施の体験会や民間企業研究者の講話等への参加機会を創出。 【数値目標】①校外研究発表の件数 200件以上〔200〕 ②全国大会レベルの受賞件数 20件以上〔22〕 ③SSH関連研修・イベント参加生徒延べ人数600名以上〔622〕 ④海外交流、海外研究者講演会、英語研修 10件以上〔9〕 ⑤大学・企業との連携活動への参加生徒述べ人数200名以上 ⑥読書率 75%以上〔70〕〔213〕
2 学習指導 (1)質の高い授業を実践できるように努める。 ①基本的な知識・技能を習得させるとともに、それを活用できる学習活動に取り組み。また「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ②双方向の授業を行い、生徒が思考・判断・表現する場面を設定することにより、生徒の主体的な態度を醸成する。 ③相互授業参観を活性化し、OJTを充実させる。 ④外部での授業研究等の研修成果を教科会等で還元し授業改善に努める。 ⑤朝・放課後等の学習活動、補習を活用してきめ細かな指導を充実させる。 (2)新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するために、「教科マネジメント」を確立する。 ①3年間を見通した指導計画を作成し、効果的な学力向上を目指す。 ②小テストの結果や課題提出状況を指標として、生徒自身が主体的に取り組む態度を身に付けることができるような指導の機会を作る。 (3)到達度テストや進路部の学習時間調査などで家庭学習時間を把握し、生徒一人一人がその充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	(1)授業改善に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る。 ①生徒による年2回の授業評価アンケートを実施し、結果を分析して改善につなげるPDCAサイクルを確立する。 ②校内の相互授業参観や予備校講師による授業力向上セミナー等を活用して、良い授業実践を共有する。 ③観点別評価等における指導と評価の一体化に取り組む。 (2)新学習指導要領に対応した取組 ①生徒による授業評価を観点別評価に則した質問項目ごとに学年別や普通教科・創造理数科・科学技術科の科目別に分析を実施し改善に資する。 ②各学年、教科ごとに小テストや課題提出状況を振り返る機会を設け、次の目標を明確にするサイクルを確立する。 (3)適時・適切な課題（宿題）を設定し学習習慣の定着を図る。 ・課題の履行状態と目標達成度を把握し、個々の状況に応じた支援を行い、家庭学習時間の充実を図る。 【数値目標】授業評価アンケートの肯定的評価割合85%以上
3 進路指導 (1)3年間を通した継続的・系統的な進路指導体制を構築する。 ①進路指導部主導の指導体制を確立し、一貫性あるキャリア教育を展開する。 ②外部模試毎に目標設定や分析会を実施するとともに、適宜ケース会議を設定するなどして学校全体で情報共有を図る。 ③自習室等の検討や自主学習体制の課題を整理するとともに、学習支援クラウド等のデジタル技術を活用した教育を推進する。 (2)国公立・難関私立大学の理系学部受験、および総合型・学校推薦型選抜に向けた指導を強化する。 ①年2回以上の生徒面談や年1回以上の三者面談を通じて、生徒一人一人の適性・能力に応じた大学選抜方法等の指導を行う。 ②長期休業中の講習・補習、総合型選抜に対応した面接指導など個別指導を充実させ、多様な大学選抜方法を活用し、生徒の進路実現を支援する。 ③模試や共通テストに向けた土曜講習等の内容の充実を図る。 (3)生徒の進路実現に資する資格取得指導を展開する。 ①英語検定の事前指導を充実させ、受験を推奨する。 ②基本情報技術者、ITパスポート、電気工事士、危険物取扱者、溶接等の資格取得に向けて、計画的・組織的に取り組む。	(1)生徒の自主学習時間の向上を図り、第一希望大学進学へ向けて支援する。 ①各種講演会、説明会、模試の振り返り指導を定期的 to 実施し進学意識を高めるとともに、学力推移を把握する。 ②学習支援クラウド等を活用し自学・自習の確立を図る。 (2)外部模擬試験等を計画的に実施し、個別ケース会議等を取り入れ、一人一人の生徒に応じたきめ細やかな指導を行う。 ①外部模擬試験の全員受験の事後指導の充実と希望者向け受験の活性化を図る。 ②きめ細やかに面接指導を展開し、卒業まで学びを継続する支援・指導を行う。 (3)模試対策や共通テスト、資格取得に向けて、教科ごとに目標を明確にして、計画的・組織的に取り組む。 【数値目標】①国公立大学現役合格者数15名以上〔15〕 ②四年制大学現役進学率75%以上〔67〕 ③授業以外での学習時間 2時間以上（全学年平均値） ④長期休業の講習等の開講講座数80件以上〔58〕 ⑤英検準2級程度以上の合格者数 80名以上〔69〕

4生活指導 挨拶から始まり、規律ある学校生活の中で、自立の精神を養う。 ①挨拶の響く明るい学校を推進し、教職員の率先垂範を徹底する。 ②遅刻防止指導と身だしなみ指導を全教職員で指導する。 ③授業時間を最大限活用するとともに、チャイム始業及び終業を徹底し、机上整理等の授業規律指導を通して、自己管理能力の育成を図る。 ④地域や関係諸機関と良好な関係を構築し、生徒の健全育成や、登下校のマナー向上などの課題解決を図る。 ⑤学校いじめ対策委員会を中心に指導体制を充実させ、いじめのない学校づくりを推進する。また、体罰や不適切な指導の根絶に努める。 ⑥防災教育推進委員会と連携し、地域と連携した防災訓練及び年4回の避難訓練を計画・実施する。	全職員が組織的に生活指導に取り組む。 ①「SNS学校ルール」に基づいた指導に加え、「生徒一人1台端末」に向けた体制を整備し、特にSNSに関する指導は年度当初のセーフティ教室等で徹底を図る。 ②年2回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深める。年1回以上の三者面談を実施し、保護者との連携を図る。 ③いじめアンケートを年3回（6月、11月、1月）実施し、いじめ等の重大事態の未然予防、早期発見に努める。 【数値目標】年間遅刻回数1日1学級1人未満〔1.45〕 学校評価アンケート「生活指導は適切か」生徒の肯定的評価の割合85%〔86.3〕
5募集・広報活動 (1)本校の認知度、教育活動への理解度を高め、本校を第一希望とする生徒を増やし、受検者増につなげる。 ①総務部を中心として募集対策委員会を学年・分掌を問わず編成し、積極的な募集広報活動を展開する。 ②ホームページ更新回数を増やし、教育活動や生徒の活躍を情報発信するとともに、学校案内やチラシ等を効果的に活用する。 ③学校見学会、体験入学、学校説明会、個別相談等を実施するとともに、外部での合同説明会等に積極的に参加し、来校者数増につなげる。 ④創造理数科及び科学技術科の特長や魅力を周知するため、中学校訪問・塾訪問を実施し、幅広い地域からの志願者を開拓する。 ⑤授業公開、公開講座等により地域に開かれた学校づくりを目指す。	(1)学校見学会・説明会の充実と適時・適切な情報発信を行う。 ①都立高校等の合同セミナー・相談会の本校を会場とした開催や、学校見学会・説明会の一層の内容充実を図る。 ②定期的なHPトップの改訂とSSH関連行事の取組を発信し、本校の魅力を周知する ③広報活動実施時期に合わせた情報発信、説明動画の配信等を実施し、募集・広報活動の一層の効果を高める。 【数値目標】 ①ホームページ更新回数300件以上〔283〕 ②入選推薦応募倍率1.5倍以上〔理1.4、科1.1〕 ③入選学力検査応募倍率1.8倍以上〔理2.3、科1.2〕 ④入選学力実受検倍率1.2倍以上〔理1.7、科0.9〕
6保健・健康づくり等 (1)健全な心身を育む取組を実践する。 ①学校保健計画に基づき、体力や健康づくり、食育指導充実を図り、健康観察を継続し教室環境等を整備することにより感染予防体制を充実する。 ②スクールカウンセラー（以下、SCと略）や学校心理士等を活用した教育相談体制や、特別な支援を要する生徒へのケース会議等を実施する特別支援教育体制を充実させる。 ③清掃活動やごみの分別を徹底して校内美化活動を推進する。 ④健康診断や体力テストを活用し生徒の健康維持、体力向上を図る。	(1)教育相談機能の充実を図る。 ①SCによる1年生全員面接を1学期中に実施する。 ②教育相談委員会を定期開催し、要支援生徒情報を共有する。 (2)美化・清掃活動を徹底する。 ①ごみの分別・削減に取り組むとともに、校内美化に取り組む。 【数値目標】①教育相談委員会開催回数15回以上〔16〕 ※教育相談に限らず特別支援が必要な生徒にも対応する。 ②学校評価アンケート(清掃状況)肯定割合75%〔73.5〕
7特別活動・部活動 (1)特別活動・部活動を充実させ、生徒の帰属意識を高める。 ①体育祭、四葉祭等の学校行事において、実行委員会を中心に生徒が主体的に取り組む態度を育成し、成就感や達成感を高める。 ②部活動加入を奨励し、部活動加入率を高め、文化部・運動部ともに活動を活性化させる。 ③生徒会活動でリーダー性を育むとともに、委員会活動を充実させる。 ④地域や関係機関との連携を密にして、地域行事やボランティア活動への参加する活動を活性化させる。 ⑤学校2020レガシーを継承し国際理解やスポーツへの興味・関心を高める。	(1)学校行事の実施内容や形態を見直し、各学校行事の伝統継承や刷新の取組を支援し、一層の充実を図る。 ①最新のガイドラインに留意し、実施出来る工夫を尽くす。 ②生徒会・委員会における生徒の主体的な活動を支援する。 (2)部活動の適正化や活性化に取り組む。 ①生徒の実態把握に努め、保護者との連携を密にして、魅力ある部活動作りに取り組み、加入率を高める。 【数値目標】①部活動加入率75%〔60〕 ②学校評価アンケート(学校行事)肯定割合81%〔85.4〕
8学校経営・組織体制 (1)組織的な学校運営を推進する。 ①企画調整会議と各分掌、経営企画室との連携を強化する。 ②令和6年度に設置にされた「創造理数科」について、創造理数科運営委員会を定期開催し、関係する分掌及び教科間の調整を行い、創造理数科のカリキュラムの確立及び周知を図る。 ③年3回の服務事故防止研修等により、SNSの取扱い、答案紛失事故等の防止に向けた個人情報 の適切な管理及び体罰根絶対策を徹底する。 ④体育施設開放、公開講座の開講等により、本校の施設や教育力を地域等の都民へ広く還元する。 (2)ライフ・ワーク・バランスを推進する。 部活動の休養日設定、業務の効率化に努め、育児や介護等を支援する。 また、教職員の勤務時間に対する意識改革を図る。	(1)マネジメントサイクルの機能を高める。 ①自律経営推進予算やSSH予算等を連動させ、有効活用することを念頭に経営企画室の経営参画を強化する。 ②創造理数科運営委員会を定期開催し、企画調整会議と連動させて全職員に周知していく。 (2)ライフ・ワーク・バランス推進の取組として、教職員の在校時間の縮減を推進する。 ①学校閉庁日の適切な実施、「休暇取得促進ウィーク・月間」等を活用し、年休取得の促進を図る。 ②看護休暇・短期介護休暇・時差勤務等の利用を推奨する。 【数値目標】 学校評価アンケート(学校生活充実感)肯定割合85%〔88.1〕 学校評価アンケート(学校生活満足度)肯定割合85%〔83.1〕